

図書室の使い方

図書室は、1年生～6年生まで使うので、守ってほしいルールがあります。
ルールを守って、みんなが気持ちよく過ごせる図書室にしましょう。



〈使い方〉

開いている時間：朝休み・中間休み・昼休み（毎日開いています）

貸出さつ数：4さつ 貸出期間：2週間 予約さつ数：5さつ

- ① 借りている本を返してから、新しい本をかりましょう。
- ② 返す本は、ろうかにある白い箱の中に、大きさをそろえて入れましょう。
- ③ 本をかりる時は、カウンターで、貸出の手続きをしてもらいましょう。
※貸出カードと、本のバーコードを見せてください。



〈ルール〉

- ① 図書室は、本を読む場所です。静かにすごしましょう。
- ② 教室から図書室までのろうかや、図書室の中では走りません。歩いてください。
- ③ 図書室の中では、おにごっこや、かくれんぼなどをして、遊びません。
- ④ 本の返きやく日を守りましょう。
- ⑤ 本は大切にしましょう。破ったり、落書きしたりしません。
- ⑥ 本が破れてしまったり、よごれてしまったりしたら、図書室の先生に教えてください。本の修理は、図書室の先生がします。
- ⑦ 本をお友だちには貸しません。自分の借りた本は、自分で持つておきましょう。
- ⑧ 図書室の本は順番にならんでいます。正しい場所にもどしましょう。

八幡市立八幡小学校 図書室

本のおたより

（4年生～6年生用）



令和8年5月18日春号

楽しい本しょうかいします

4月から新学期が始まり、もうすぐ2か月が経ちますね。今年度も読書の時間がありますので、たくさん図書室を利用してくださいね。楽しみに待っています。

今回の「本のおたより」では、読むと楽しい気持ちになる本をしょうかいしたいと思います。本を読むことが苦手な人でも読みやすい本が多いので、気になる本を図書室に借りにきてくださいね。

自然科学 『生きもののふしぎなお話～なぜ？どうして？編～』



自然史学会連合/監修 誠文堂新光社

生きもの博士になれるかも！？

この本は、身近な生きものや、動物、植物、人間の持ちようや、行動のなかで、不思議だなと疑問に思うことが分かりやすくイラスト付きで解説されている本です。

例えば、「パンダはどうして白黒なの？」や、「シカのツノは何のため

にあるの？」、「どうしてイヌは人なつっこいの？」、「魚のウロコは何のためにあるの？」、「どうして鳥は空を飛べるの？」、「人が夢を見るのはなぜ？」、「世界で一大きな木は？」など、気になる質問ばかりです。

知りたい生きものことから読んでみてくださいね。生きものたちによりくわしくなれるコラムものっていますよ。

物語 『宿題ロボット、ひろったんですけど』

トーマス・クリストス/作 もりうちすみこ/訳 柴田純与/絵 あかね書房



ロボットと男の子の間に友情が生まれる！？

小さなロボットオルビーは、宇宙探査のために開発されたロボットです。とてもかしこく、様々な国の言葉を覚えていて話すことができたり、計算問題もすぐに解くことができたりします。

そんなオルビーの役割は、宇宙船で宇宙に飛んでいき、まだ知られていないわく星を調査することです。しかし、その宇宙船は、地球にはもどらないことを知ったオルビーは、悲しくなって、研究所からにげ出しました。

にげ回って、エネルギーが切れたオルビーを見つけたのは、9才の男の子リヌスです。リヌスは、オルビーを家でかくまうことにしました。オルビーが来てから、リヌスは、学校の友達と仲良くなったり、何をするにも勇気がわいてきたり、とても楽しくすごしていました。

ところが、ある日、何者かにオルビーをぬすまれてしまったのです。リヌスは、オルビーを守ることができのでしょうか？

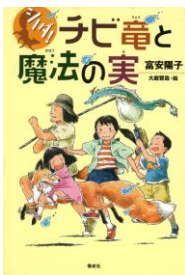
物語 『チビ竜と魔法の実』 シノダ！シリーズ

富安陽子/著 大庭賢哉/絵 偕成社 **秘密をかかえた家族の愛情物語**

パパと、ママと、3人の子どもの達のごくごくふうに見える5人家族の信田家。実は、信田家には、だれにも知られてはいけない秘密がありました。それは、ママの正体がキツネだということです。人間のパパと、キツネのママ、人間とキツネのハーフの3人の子どもの達。この信田家には、次から次に災難が降りかかってくるのです。

ある日、おふろ場に行くと、小さくて青い竜が飛び回っていて、住みついてしまいました。竜は、雲を使って、雨を降らし、体はどんどん大きくなっていきます。この災難に、信田家は、どう立ち向かうのでしょうか？

災難の連続にドタバタしますが、信田家は、いつも明るく、前向きに立ち向かっていくのです。家族愛ときずなを感じられるシリーズです。



物語 『日直もがんばってる』 青空小学校いろいろ委員会シリーズ

こまつばらひろこ/作 あわい/絵 ほるぷ出版 **対照的な2人で協力し合おう**



かくれ目立ちたがりやの渡辺ユウイチは、日直の仕事を密かに楽しみにしています。なぜなら、みんなの前で自分の意見を言うことで、注目されたいと思っているからです。反対に、横川クミコは、人前に立って、自分の意見を話すことが苦手なので、日直の日が近づいてくると、ゆううつな気持ちになります。

そんな2人がペアになり、日直の仕事をすることになりました。最初は、ユウイチが、クミコをリードして、日直の仕事を進めていたのですが、ある出来事をきっかけに、2人の立場が逆転してしまいます。さて、2人は、協力し合って、日直の仕事をやり切ることができるでしょうか？

このシリーズは、委員会がテーマになっています。図書委員会や、給食委員会、保健委員会など、委員会ごとの物語がありますので、5・6年生は、自分の入っている委員会の本を読んでみてはいかがでしょうか？

物語 『忘れもの遊園地』 久米絵美里/作 かわいみな/絵 アリス館

人の記憶についての知識が増えます

忘れものをして困っていたトラタとレミに、「忘れものですか？」と、声をかけてきたおじいさん。おじいさんは、忘れもの遊園地の園長で、忘れものをわたす代わりに、タブレットに忘れたいことを1つ書きこんでほしいと言います。書きこむと、忘れたくない記憶を忘れることができ、その記憶が忘れもの遊園地のエネルギーになるのだそうです。

ある日、レミのママが忘れもの遊園地に行ってしまったことを知り、レミと、トラタと、トラタの姉のツバメの3人は、ママを探しに行くことにしました。忘れものでできたアトラクションを回りながら、ママを探しますが、園長は記憶を忘れさせようとしてきます…。どうやら、トラタとレミには、過去に忘れてしまったつらい記憶があるようです。

人の記憶について考えさせられる物語です。

